



社会にフォーカス

Vol. 14

社会の部屋では、授業で取り上げたい時事問題や教師が押さえておくべき教育界の動向について焦点を当てて紹介するコーナー「社会にフォーカス」を随時掲載します。



高等学校「歴史総合」への接続に向けた小・中学校での取組

前号では高等学校地理歴史科「歴史総合」の新設についてふれましたが、今回は、「歴史総合」の学習展開のポイントと、小・中学校の歴史学習で心がける点について説明します。

●課題を設定し、追究したり解決したりする活動

「歴史総合」では「課題を追究したり解決したりする活動が展開するように学習を設計することが不可欠」としており、「課題（問い合わせ）」を設定し、追究する学習が求められています。そこで、生徒が課題意識をもって考察できるような4つの大項目が設定されています。

- A 歴史の扉
- B 近代化と私たち
- C 國際秩序の変化や大衆化と私たち
- D グローバル化と私たち

また、新学習指導要領解説では、設定すべき課題（問い合わせ）を列挙したり、具体的な学習の例を複数挙げたりするなど、かなり授業に踏み込んだ内容となっています。

<課題（問い合わせ）の設定例>

○推移や展開を考察するための課題（問い合わせ）

「大量生産や大量消費が人々の生活をどのようにかえたのだろうか。」

○事象を比較し関連付けて考察するための課題（問い合わせ）

「あなたが、その事象が起こった最も重要な要因は何だと考えるか。」



広く浅く「教える」のではなく、歴史の節目に関わる事例を深く「追究」させることでより確かな時代理解を求めています。

●歴史学習の小・中・高等学校間の円滑な接続のために



中学校で心がけること

学習内容を各時代の特色や、大きな時代の転換を説明した概念的知識としてつかむことが重要です。また、学習過程を生徒による主体的な思考・判断・表現過程として組織することが求められています。

具体的には、下記のような単元の流れです。

- ① 諸事実の確認
- ② 諸事実の関係
- ③ 諸事実から見いだせる時代の特色（世界の歴史を背景に考察）
- ④ 前時代と比較して、どのような変化・継続かを見いだす



歴史分野の時数がこれまでの130単位時間から135単位時間へと変更になったことからも、歴史学習の充実に重きが置かれていることがうかがえます。

さらに、

- ① 記述→②説明→③解釈→④選択・判断→⑤論述→⑥議論

といった、言語活動を組み込んだ学習過程を計画的に組織することが、高等学校への学び方の接続という視点から重要です。

小学校で心がけること

小学校はあくまでも、「我が国の」「大まかな歴史」を「理解する」ことがねらいです。また、学習指導要領の「内容の取扱い」において、「当時の世界との関わりにも目を向け、我が国の歴史を広い視野から捉えられるよう配慮すること」と明記されているように、視野を国内に閉じず世界地図などの資料を活用して、諸外国の動向と我が国の歴史事象との関係を大まかにとらえさせるようにすることが大切です。

これまで第4学年から配付されていた「教科用図書地図」が第3学年から配付されるようになるのも、グローバル化への対応からです。

さらに、「どのように（な）～」型の問い合わせ社会的事象の内容を理解させ、「なぜ（どうして）～」型の問い合わせ理由を考えさせる展開など、小学校における歴史学習における追究の視点は、高等学校まで一貫するものと言えます。

以上のように「歴史総合」が目指す授業展開から見て、高等学校においても「教える」授業から、生徒の思考を深めるための資料や発問を「コーディネートする」授業への転換が求められています。これは、小・中学校の新学習指導要領が目指す方向と同じと言えます。

また、小・中学校社会科において、今後はより一層、「世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉える」授業展開を意識する必要があります。



